**大阪府中河内二次医療圏　医療・病床懇話会　概要**

日時：平成30年7月26日（木）14:00～15：30

場所：八尾市保健所　大会議室

**■議題１　　2018年度「地域医療構想」の進め方について**

**資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療企画課から説明。**

**資料１　2018年度「地域医療構想」の進め方について**

**（主な質問・意見等）**

〇病床については急性期が多く、回復期が少ないと理解していたが、急性期機能の中にも回復期機能に近い急性期機能があるということが分かった。大阪方式で、重症急性期と地域急性期に分類できると理解した。

〇大阪府の急性期病棟の分析指標として4項目（救急医療実施状況、手術の実施状況、呼吸心拍監視の実施状況、化学療法の実施状況）を選択した理由は何か。また、分析方法として多変量解析を用いたのか。

〇急性期病棟の分析にかかる指標の4項目の中に化学療法を指標に入れているが、分類の基準がずれていくのではないか。

〇東京など他の地域は、急性期病棟の分析はどうしているのか。

〇急性期と報告しているが回復期機能に近い病床があり、地域急性期というカテゴリーにより、

それを明確にするとのことだが、今後このカテゴリーに入る病床をどうしたらいいのか。このまま急性期病床として運営・報告しておいて良いのか。

〇今年度の地域医療構想の進め方の基本的な考え方の[STEP2]に「公民分け隔てなく」と記載があるが理由を確認したい。公的機関に関しては、各種補助金などを受けていることから、そのあり方も含めて議論をスタートするべきである。

**（主な回答）**

〇大阪方式の４項目を選択するのに多変量解析は用いていない。分析項目のうち、化学療法の扱いについて様々な意見があるのは理解しているが、診療の実績や入院料別の傾向を確認し項目を選定した。他の都道府県では、例えば奈良県は救急と手術の2項目を用いて重症急性期と軽症急性期に分類している。この他、埼玉県・佐賀県なども分析をしている。

〇今回の分析の目的は、病床機能報告と病床数の必要量の定義の違いを前提に、病床機能報告における急性期報告病棟についてデータをもとに分析し、回復期的機能を担っている実績を可視化したもの。そのため、今回の分析と病床機能報告とはリンクしておらず「地域急性期」に分類されても「回復期」に訂正して報告をお願いするものではない。

〇公民分け隔てなくの考え方は、先に公的機関の役割を決めてしまい、残った役割を民間で担うというのではなく、公民を分けず病院全体が同じスタートラインに立って、今後のあり方について

議論を行うということ。

**■議題２　中河内二次医療圏「地域医療構想」の現状と今後の方向性**

**資料に基づき、事務局から説明**

**資料２－１　中河内二次医療圏「地域医療構想」現状と今後の方向性**

**資料２－２　病院ごとの医療機能一覧（病院プラン等結果）抜粋版**

**資料２－３　病院ごとの医療機能一覧（病床機能報告暫定結果）抜粋版**

**資料２－４　中河内二次医療圏における患者受療状況（ＮＤＢデータ）**

**資料２－５　二次医療圏ごとの医療提供状況（ＮＤＢデータ）**

**資料２－６　ＤＰＣ参加病院と中河内二次医療圏におけるＭＤＣ別診療実績の推移**

**（主な質問・意見等）**

〇中河内医療圏では、急性期治療で圏域外に流出した患者が、病状の回復により圏域内に戻ってくると考えられ、より多くの回復期病床が必要なのではないか。

〇15：1の病棟でも、重症急性期と分類されている病棟は一定ある。15：1の病棟を回復期とみなすという考え方はあてはまらないのではないか。

〇今後は病床機能の転換が議論になっていくが、診療所側の立場からすると在宅医療を支えるために病院の病床数は減らしてほしくない。

〇大阪府ではどのように算定し議論を進めていくのか。病床を減らすことはしなくて良いのか。

それよりも回復期病床を増やしていかなければならない。

**（主な回答）**

〇資料2-3に記載している15：1病床に関しては、地域急性期と分類されている病棟は72.9％あるが、この部分は回復期的機能を担っていると考えられる。

〇全体的には他の病床機能もおしなべて人口あたり病床数は府平均より少ない状況である。

重要なのはＭＤＣ別診療実績の推移状況である。

〇急性期については他圏域をある程度利用して病床数は平衡状況を保っている。今後、医療需要は増加するため、病床を減少させてさらに他圏域に依存してしまうことで、現在の平衡状況が変化することについては、慎重な検証が必要だと考える。

**■議題３　地域医療介護総合確保基金事業について　（資料3）**

**資料に基づき　事務局から説明**

**資料３　地域医療介護総合確保基金（医療分）について**

**（主な質問・意見等）**

〇H29年度の配分の58.9億円のうち病床機能転換に補助金はどのくらい執行されているか。

〇いつまで補助金があるかわからない。病床転換のための規制を緩和してもらえれば転換もスムーズにいくのではないか。その前に自分の病院がどんな立ち位置かを把握しなければならない。

**（主な回答）**

〇予算額約17億円で、執行は1割程度。